

完遂

3 学年通信

第2号



令和元年 6月 5日発行
福岡県立久留米高等学校
校長 木本 和宏
第3学年主任 新木 幸子

「一生ものの宝物」

2組担任 寺崎 慎

「高3」という期間に、私は人生の宝物を手に入れました。正直、勉強に対しても部活に対しても、君たちよりも中途半端に取り組んでいたかもしれない私が、到底届きそうにない志望校を目指して、ただひたすら頑張れたのはその宝物があったからです。その宝物とは当時のクラスメイトです。休み時間におしゃべりをしたり、じゃれ合ったりする、ただの「友達」は、2年生のクラスにもたくさんいました。ただ3年時のクラスメイトは、目標に向かって共に頑張ったり、会話がなくても「あいつががんばっているから」と刺激し合ったりできる「仲間」だった気がします。クラスマッチや体育祭、文化祭も「仲間」と、その時々々に全力を尽くすことができたので、とてもとても楽しい時間でした。

そんな私の受験。担任の先生に「えっ本当に受かったの」と言われるような大学にも合格することもできましたが・・・本当に行きたかった第一志望には残念ながら届きませんでした。やはり2年生までのツケは大きかったのかなとも思いました。しかしながらそんな時でも「仲間」は温かい声をかけてくれ、また同じ境遇に立たされた「仲間」とは励まし合うこともできました。

「はたから見たら、確かに失敗っちゃ。でもこれまで頑張ってきたけ、全然後悔はなくね？これからまた頑張りたいいいちゃ。」

いつも一緒に勉強をしてきて共に第一志望に失敗したH君が、母校の進路指導室で(そのパソコンで発表を見ましたので・・・)私に向かってボソっといった言葉は今でも忘れません。歴史上の大偉人の名言のような素晴らしい響きではないけれど、とてもジーンときたのを覚えています。

一緒に頑張るという経験。私は今でも素晴らしい職場で、その経験をさせてもらっています。しかしながら「無縁社会」が叫ばれる現代社会において、こうした「人と人とのつながり」は次第に無くなってきているようにも感じます。「人とつながること」は良いことです。友人や周囲の人を大切にしてください。

今年、あれから14年が経とうとしています。私は幼少からの「学校の先生になりたい」という夢を叶えることができました。H君も夢であった公認会計士として活躍をしています。あの瞬間にお互い下を向いてただ後悔に打ちひしがれるだけだったら、受験のショックから立ち直ることができず、ずっと引きずっていたかもしれないかもしれません。今ではもう、年に一回しか会わないけれど、本当に何にも代えることができない鮮やかな思い出とともに、私自身を成長させてくれた、「宝物」には今でも感謝しています。そんな「仲間」を君たちもぜひ作ってください。

「あきらめない」

2組副担任 古賀 伊彦



皆さんは次の言葉を聞いたことはありませんか。

成せばなる、成さねばならぬ何事も 成らぬは人の、なさぬなりけり

江戸時代の米沢藩主上杉鷹山(ようざん)の言葉です。上杉鷹山は、アメリカ大統領のケネディが尊敬する日本人としてあげた人物です。

上杉鷹山は借金だらけの米沢藩を立て直した偉人です。小さいころから勉強熱心で、10歳で米沢藩の婿養子となり、14歳の頃から細井平洲に師事し、君主としての知識をみがきました。17歳(丁度君達と同年代ですね)で米沢藩を継いだものの、莫大な借金があることを知りました。鷹山は借金を返すために、自分から模範を示して節約に努めました。財政再建、産業育成、人材育成を同時にしたすばらしい日本人でした。

米沢藩は現在の山形県米沢市にありました。上杉家は関ヶ原の合戦で石田三成に味方をしたため、徳川家康により会津(福島県)120万石から、米沢(山形県)30万石に減らされ、さらに3代藩主のころは、半分の15万石にまで減らされました。藩の収入が激減して藩の財政は大変苦しくなり、借金総額も莫大な金額になってしまいました。借金で首が回らなくなった米沢藩は、重税を農民に課しました。そのため藩から逃げる人が増えてしまい、13万人いた人口は、1760年ごろには10万人程度にまで減少してしまいました。

さて、9代藩主になった上杉鷹山は、改革を決意し実行しました。まず、それまでとは違えば下級武士の意見を採用しました。次に、その頃は家臣・領民が貧しくても藩主だけは贅沢するのが当たり前時代に、自ら儉約に努め質素な暮らしに努めました。当時、米沢藩には、これといった名産特産品がありませんでしたので、他藩から講師を招き、養蚕・絹織物を発展させました。そして、改革に必要な場合には、例え重臣であっても処罰するという厳しい態度で自分にも他人にも律してきました。

改革に反対する家老らによる妨害や、改革に無関心で非協力的な人々がいて、多大な困難が待ち構えていましたが、反対勢力の妨害に屈することなく、粘り強く人々に働きかけて改革を軌道に乗せました。こうした改革が続けられ、35歳のころには財政が改善されました。まさに「成せばなる」です。

もし、上杉鷹山が途中で改革をあきらめていたら、改革は達成されず、米沢藩は潰れていたでしょう。私は若い頃、上杉鷹山に関する本を読み、大変感銘を受け勇気をもらいました。良かったら皆さんも読んでみませんか。

童門冬二『小説上杉鷹山』

藤沢周平『漆の実のみのる国』



* 体育祭について *

3組担任 江崎 健史

令和元年度の体育祭スローガンは、

『 **新境地** 』～令和の時代に名を馳せろ～ です。

昨年度末から、実行委員と各ブロックのリーダーを募集したところ、名乗りをあげた3年生の生徒を紹介します。

実行委員長	江島杏奈
副実行委員長	五月女愛美、寺田幸作
実行委員	江上風紗、倉吉歩美、重松優希、山上琴

	赤ブロック	青ブロック	黄ブロック
ブロック長	内田凌大	中村海	九木田理也
副ブロック長	鮎川七瀬	松藤星空	宮崎果歩
応援団長	中村玄起	東源太	渡利健心
副応援団長	北原真那	枝光紗良	江口詩乃
人文字長	城戸楓香	石松りさ	加藤綾
バックパネル長	鼓琴美	松本沙弥	田中莉安
フォークダンス長	井手美里	吉浦峻平	早瀬菜々子
選手長	半田華乃音	権藤陽大	川邊聖梨奈
会計	山下友菜	溝口睦乃	西村梨花

すでに、4月25日(木)と5月23日(木)にブロック集会を開き、各係の生徒や出場する種目の割振り等が決定しているところです。また、リーダーたちは5月27日(月)から始まる全体練習に向けて、ブロックの指導係長の先生方と協議を重ね、細かな計画を立ててきました。これからは、本当の始まりです。上手くいかない事や苦悩する日があるかもしれませんが、辛いことから逃げず、それを乗り越えることによって、また成長です。3年生が主役となって創りあげる体育祭。挑戦する気持ちを持って、練習から全力で挑み、体育祭当日には達成感や充実感を味わってほしいです。“今”の君たちにしか経験できない事、味わえない事が青春時代です。どんな『 **新境地** 』の体育祭を魅せてくれるのか、誰が、どのブロックが**令和に名を馳せる**姿を魅せてくれるのか、楽しみです。

令和初の体育祭を、乞うご期待ください。

令和元年6月8日(土) 8時40分開始

* 進路課より *

5組担任 尾崎 和則

体育祭の練習も佳境を迎え、本番でどのような活躍を見せてくれるのか期待に胸を膨らませています。高校生活最後の体育祭を生徒自らの力で作り上げ良い思い出となるようなものにしてもらいたいと思っています。

さて、体育祭が終われば、気持ちを切り替え受験に向けて再スタートを切らねばなりません。そこで、今後の1学期間の進路関係の日程について確認します。

6月11日(火)	進路講演会(久留米ゼミナール：三浦先生) 勉強合宿案内 → これを機会に本当の受験に切り替えよう！
6月11日(火)(予定)	学生支援機構(奨学金)の校内説明会実施
6月13日(木)	特定大学プレテスト案内(25日(火)締切)
6月15日(土)	(希望者のみ)GTEC受検
6月20日(木)	第1回推薦・AOガイダンス
6月21日(金)	九州工業大学説明会(16:10より本校にて)
7月4日(木)	第2回推薦・AOガイダンス

*その他に、福岡県立大学、佐賀大学、防衛大学校などの説明会も予定しています。日程が確定次第連絡をします。

受験勉強だけでなく、それに付随する多くの行事が入ってきます。これからますます忙しくなりますが、時間の有効活用および体調管理を徹底しましょう。

* 学校行事 *

6月27日(木)～7月2日(火)	期末考査
7月6日(土)7日(日)	進研記述模試
7月13日(土)	久セミ
7月17日(水)～19日(金)	三者面談
7月19日(金)	終業式
7月22日(月)～8月2日(金)	前期夏課外(10日間)
8月2日(金)	出校日
8月4日(日)～8月8日(木)	勉強合宿(希望者)
8月21日(水)～23日(金)	後期夏課外(3日間)
8月24日(土)25日(日)	全統マーク模試
8月26日(月)	始業式